

Alma Mater

白陵

第10号  
平成3年6月20日発行  
発行白陵会  
〒676 高砂市阿弥陀町阿陀2260  
TEL.0794(47)1675(代)

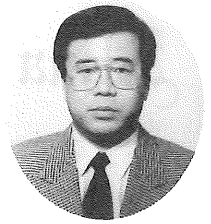


## Alma Mater 白陵 第10号

- 会長・校長挨拶 ————— 2 P
- 平成4年度白陵会名簿発行予告 — 3 P
- '90白陵会総会特集 ————— 4・5 P
- 白陵軍団集合(その4)  
サッカー部OB会 ————— 6 P
- 白陵今昔物語(5)校則変更の巻 — 7 P
- 学校近況紹介 ————— 8 P
- 平成3年度(26期生)  
大学合格者数調べ ————— 9 P
- 白陵会ニュース ————— 10 P

我が白陵校歌一番の歌詞の一部です。在校中、何度も歌ったと言うより、歌わされたと言う感がある歌詞ですが、この時期、母校を訪れると街中の雑踏とは全く掛け離れた心地好い風が、自然に初夏を感じさせてくれます。通学路も、最近すっかり新しい家並に囲まれてしまいました。門から一歩入れば、そこは静かな「学びの杜」と称するに相応しい環境を整えています。この地に白陵があるが為に、母校に対する郷愁の感が一層深まるようにさえ思えます。しかし、立地という良さはそのまま、校則などは、今年になって大きく変わりました。今回の会報は、最新教育機器の完備した教室の紹介、長髪が許可となった校則の変更などを含め、左記のような盛り沢山の紙面でお送りいたします。

『いまいまこの丘にそよぐ風』  
世界のひびきこもる風』



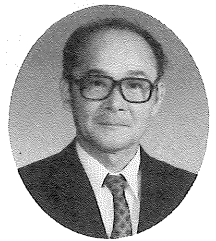
ごあいさつ

会長 沼田 好道

六月になりますと学園につながる櫛並木も新芽の緑から、より色濃くなり、いよいよ又暑い夏を迎える準備をしている様です。白陵会の皆様はいかにお過ごしでしょうか。

白陵会は今年三月に二十六期生の新入会員を含め四千五百五十九名になりました。昨年の白陵会総会は白陵会館にて総会、そして記念講演として、政治評論家の早坂茂三先生をお迎えして大変有意義なお話を伺い、つづいて体育館において懇親会を開催、三木理事長をはじめ多数の恩師の先生方を囲み、先輩、後輩、が恩師と共に一同に会し、あの白陵時代の少年の心に戻って大いに語り、大いに酒を酌み交わしました。多数の御出席誠に有難うございました。

白陵高等学校も来たる平成四年で創立三十周年を迎えようとしております。私は二十周年の時、故三木園長先生が本紙に掲載されたお言葉を思い出しました。『学園道路に高く聳える櫛の並木は紅葉した樹冠を冷い空に静かにさし伸ばし、すでにして巨木の風格を備えて見えます。私はどうかみなさんのひとりひとりが、それぞれの場で、この櫛のような巨木になられることを祈



ごあいさつ

校長 八木 誠造

って止みません。今、自分の人生の中で、多少かげりのある時期にある人も、逆に高揚の頂点におられる人も、これは長い人生の一時期に過ぎないと観じて、新しい目標に向かって、一歩一歩、真摯に生きて行こうではありませんか。人生は他人から教えられることの方が遥かに多い。良き先輩を持ち、また良き後輩に恵まれます。これが白陵の同窓会の特色でありましょう。』

S.6.11 Alma mater Hakuroより

わたしは故三木園長が考えておられた、あらゆる意味で日本一の学校になるといつた白陵の日進月歩の凄まじい勢いを同窓会会員のひとりひとりが常に脳裏に焼きつけ行動するということでも少しでも役に立つ様な同窓会にしたいと考えております。会員の皆様の絶大な御協力と御支援を今後共宜しくお願い申し上げます。来年の三十周年を記念致しまして第三回目の白陵会名簿を作成しようと考えております。準備に一年余り予定しておりますが一人の不明者もなく精度のある名簿を作りたいたいと思っております。是非皆様方の御協力をお願い致します。最後になりましたが同窓会会員の皆様方の益々の御活躍をお祈りし御挨拶とさせていただきます。

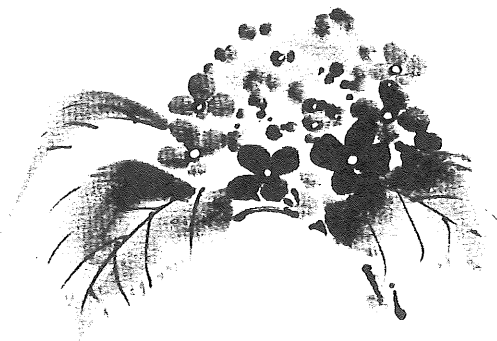
私たちの学園も、来年には創立三十周年を迎えようとしています。卒業生の数も四千人を超え、同窓会としての白陵会はますます隆昌を続けています。誠に同慶至極と存じます。

現在の在校生諸君も、多くのものがよく勉強していると思っています。甚の間、白陵は進学校だといわれていますが、だとすればそれにふさわしい成績を挙げざるべきでしょう。一流校への道が、まだまだの感否めません。徐々ながら成績が上がっていることは、間違いのないところだと思っています。それとともに、人格形成の面で十分な陶冶がなされているのかどうか、それが気になるところです。

いうまでもなく、教育は知識、技術の修得と、個人の内在する素質、能力を抜き出すことにあるといえます。

しかし教育の目的や手段は、時代の変遷とともにさまざまな形態がみられたことも事実です。例えばルソーは個性の独自の発達を、カントは道徳的完成を主張しました。

白陵においても、本年より頭髪を自由化しました。このことが描く波紋は予想外に大きいような気もいたします。



## 平成四年度 白陵会名簿

B5判 約300ページ  
発行予定日 平成4年4月上旬  
返信ハガキ締切 平成3年9月末日  
価 格 3,500円(送料共)  
名簿代金送金方法 同封の郵便局振替用紙にて送金  
ください。

※広告につきましては、別紙広告募集要項をご参照の上  
よろしくご協力の程お願いします。

## 平成四年度 白陵会名簿

### 来年四月 上旬発行予定

名簿発行委員長 名 倉 正 明

初夏の候、会員の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年の白陵会総会には、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

恩師や同窓生との久しぶりの再会に、近況報告や懐旧談などつきぬ話が山ほどあったことと思います。

さて、白陵会の次の行事は同窓会名簿の作成です。前回、昭和六十二年二月に発行された名簿も、かなり住所変更が見られるようになりました。母校創立三十周年を記念して、前回以上により正確な名簿を作りたく思っております。何とぞよろしくご協力の程お願い申し上げます。つきましてはお手数ですが、同封の住所通知票ハガキに必要事項をご記入のうえご投函いただきますようお願いいたします。

なお、今回の名簿は一冊三、五〇〇円で販売いたします。代金は同封の郵便局振替用紙にてご送金ください。皆様方より多数のお申し込みをお待ちしております。

また、母校創立以来約三十年の星霜を経た今日、会員諸氏には、公私に大車輪のご活躍のことと存じます。名簿発行に際し、皆様方からの広告も承っております。白陵会の今後益々の発展と充実のため、そして、会員相互の融和のために、何とぞ更なるご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同封の返信はがきが名簿作成の貴重な資料となります。所要の各欄にご記入の上9月末日までにご投函下さい。

# 総会だより

## '90白陵会総会開催



沼田新会長あいさつ

昨年、会員の皆様のご協力のもとに盛大に白陵会総会を開催する事ができました。その節は、お忙しい中、多数ご参加いただき誠にありがとうございました。この総会開催に当たっては、沼田総会準備委員長以下、理事・幹事・校内幹事ら全役員が総会準備委員会を中心に一致団結し準備を行いました。その間、何度も理事会・委員会を開き、総会のスケジュール、アトラクションの内容、各役員の役割分担などについて協議検討を行いました。その中で一番の問題点は、前回の総会のイメージを崩すことなく、なお一層、会員の皆様が親睦を深め、かつ楽しんでいただけるような企画を考える事でした。何分、白陵が進学校である以上、アトラクションにはある程度の知識人を呼ぶのが適当ではないか、しかし、あまり堅苦しくなっても総会の盛り上りに

坂三先生



校内幹事・役員による受付

欠けるのではないだろうか。などの意見により、結果的には講演会とアトラクションを分ける事になりました。前回の総会にもご参加いただいた方には、前回にも増して楽しいひとときを過ごしていただけるよう色々と考えたつもりではありますが、至らなかつた点多々あったことと思います。しかし、回を重ねる毎にますます楽しい総会になるよう役員一同努力して参りますので、ご寛容の程お願い申し上げます。

さて、前置きが長くなりましたが、平成二年十一月十一日(日)午前十時より母校、白陵会館大ホールにおいて白陵会総会が挙行されました。総会においての主な議題は、黒川芳一前会長に代って、新しく沼田好道氏が会長に就任されたことや、今後の総会開催時期(五年毎に開催することに決定)につ



白陵会館、和室にて早坂先生



早坂先生講演



で可決されましたが、次々に満場一致で可決されていきました。総会に引き続き、今回は白陵会館において講演会を企画しました。ゲストの弁士には、田中角栄元総理の秘書を長年務められ、現在は、政治評論家として大活躍中の早坂茂三氏を迎え、「忘れ得ぬ人々―吉田、池田、岸、田中角栄」という演題で、歴代の総理大臣の人となり、政治観について語っていただきました。早坂氏の興味深い話と、その巧みな話術にぐんぐん引き込まれてゆき、多数の方々より、実に有意義な講演だったとご好評をいただきました。講演会の後、前回と同様に会場を体育館に移し、懇親会が開催されました。この懇親会こそ、会員の皆様方が、恩師の諸先生方、卒業以来の同級生、先輩、後輩達との再会など、期待に胸を膨らませて来場された一番の目的だった、と言え



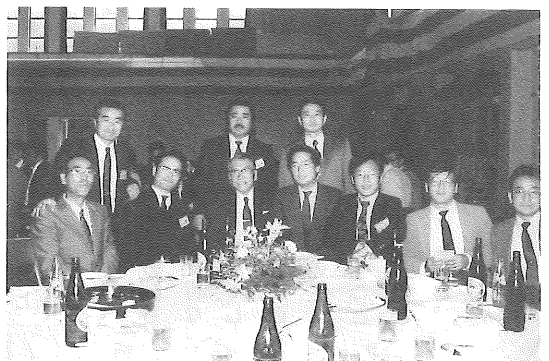
三木理事長あいさつ



鏡 割

ましよう。三木理事長の挨拶の後、恒例の行事となった鏡割りが行われ、懇親会の幕明けとなりました。三木理事長寄贈の酒樽の横には、これまた沼田会長寄贈の白陵会の焼印が刻まれた一合升が山積みされ、会の趣向を盛り上げていました。久しぶりの級友や先生との再会、昔話に花が咲き、古き良き白陵時代を彷彿とさせるものがありました。また、プロの司会者による軽妙な進行で時は楽しく過ぎてゆき、やがて、いよいよお待ちかねの豪華賞品の当るビンゴゲームが始まりました。一等賞には十四インチカラーテレビが用意されているとあって全員真剣です。スイッチャーには、同窓会がいつもお世話になっている学校事務室の長崎かおりさんが選ばれ、一役買っていました。全員一喜一憂、見事ビンゴが完成した

人からは「ビンゴ」の大声が聞かれました。中でも、三等に入賞された川副先生（二回生・校内理事）がインタビューの際、大ナツメロの「憧れのハワイ航路」で美声を披露されるなど、先生や会員のインタビュー等を交えながらの実に楽しいひとときでした。最後に白陵高等学校校歌を声高らかに合唱して散会となりましたが、他校と違い我々には、「あ、白陵の春の宵」ではじまる白陵寮歌も身近に感じられます。これも故三木省吾学園長の信念としておられた「白陵精神」の成せる業なのでしょう。最後に、今回の白陵会総会に際し、多大のご協力・ご援助を賜った理事長先生、校長先生はじめ諸先生方、役員の方々、卒業生の皆様に感謝と御礼を申し上げます。また、ぜひ次回総会でお会いしましょう。



懇 親 会



校 歌 合 唱



ビンゴゲーム

## 白陵軍団全員集合 (その4)



### サッカー部OB会に出席して

月日のたつのは早いもので、今年も半分が過ぎようとしております。

白陵会会員の皆様におかれましては、お変わりなく御活躍のことと存じます。私、高校時代サッカー部のマネージャーとして、部員の皆様と東播各校へ試合に行った楽しい思い出を時折思い出すくらいで、卒業以来二十年、母校を訪ねる機会もなく、日々の生活に追われて居りました。ところが、過日ちよつとした呼び掛けから、サッカー部OB会の結成の運びとなり、この度、四月二十八日に現役学生の方々とこの試合を実現させることができました。

当日校内に足を入れると、通学路の並木が随分成長し、建物が増え、自動販売機が設置してあるのには、驚いてしまいました。その上、グラウンドでは長髪のカラフルなユニフォーム姿で、生徒達がボールをキックしています。私たちの頃は、創部まもなくで、部員の数も少なく、練習はグラウンドの隅の方で行ない、ボールの数も充分ではありませんでした。土曜日には補習を受けずに社や小野、西宮方面へ試合に出掛けるため、故園長先生には少々とうまれていました。勝つということとは、およそ縁遠かったものの、東播三位という輝やかしい栄光も一度だけありました。当時をなつかしく思い出しているとOB達が集まり始めました。今回は慌しい集まりだつ

たため戦力は充分ではありませんが、クラブ創設の立役者、五回生の塩崎育男氏をはじめとして、足に覚えのある方々、三十名近くが集合しました。そして、豊田先生はもちろんのこと、現在は淳心学院で御活躍の野田永先生もおいで下さいました。家族連れで参加下さった方々もあり、応援団もにぎやかでした。この日のために揃えて作ったTシャツに着替えてグラウンドに降り、練習される姿はなかなかのものです。試合の方は、OB達が白陵自慢の自殺点で口火を切る、なかなかの好ゲームでした。お父さんの勇姿をみて、「一緒にしたい。」と泣きだすおチビさんもあり、女の子達もバレーボールで遊んだり、楽しい時を過ごしました。昼食の時には、毎年この時期にこのような会を開くことも決まり、将来は親子大会をなどと夢もふくらみます。早急にOB会名簿を作成し、次回は大学生達や若いOBの多数の参加を期待したいと思えます。今後も先生方を囲んで楽しい時間をもちたいと思う、本当に有意義な一日でした。

七回生サッカー部

マネージャー 角田 昭子

(旧姓 藤島)

## 白陵今昔物語(5)

校則変更の巻

## 藤田家将先生インタビュー

今日は今春変更された校則及び新しい校則になってからの変化について生徒指導部長である藤田先生の御意見をお伺いさせていただきたいのですが先ず長髪が許可になった経緯からお聞かせ下さい。

藤田 長髪については世間の風潮もあって二、三年前から問題になっていたんだが、平成二年に東大合格者が三十人を超えたのを機会に許可することにしたんや。東大に三十人も入る学校が生徒に丸坊主を強制するのもおかしいということや。まあ他にもいろいろ原因があったけどこれが最大の原因や。

学校ができて約三十年になり、学校の基礎もでき、生徒も優秀になってきたので、そろそろ生徒の意志を尊重する時期やということでしょうか？

藤田 白陵で生徒の自主性ということが初めてはっきりした形になったということや、お前らのときには自主性なんかなかったやろ。

勉強ではまず無かったと思います。どつかれるからとか、親に心配かけたらあかんからとか、自分のために勉強するということ意識が確かに少なかったと思います。

でも長髪にしたからといってそれだけで自主性が生まれるものではないと思いますか？

藤田 もちろん長髪を許可しただけですぐ効果があらわれることはない。けど長髪を許可するということは、すべてを緩めるということや。例えば、髪形が乱れるから帽子をかぶらんやろ、それなら最初から帽子をかぶらんでもええことにした。長髪で無帽なら白陵生かどうか見分けがつかん。町で食堂や映画館に入る(旧校則では違反となる)白陵生がいたとして、顔の分かる生徒なら罰せられて、顔の分からん生徒なら罰せられんという不公平が生じるのを観たりするのを許可しよう。という具合に校則全体を緩和する。白陵全体をある程度自由な雰囲気にして、そこから生徒の自主性を芽ばえさせようということや。

ぼくら卒業生にしたらうらやましいような話で、すぐに信じられないくらいええ話に思えるんですが、次にその新しい校則になってから、先ず白陵内ではどういう風になりましたか？

藤田 予想していたことではあるが、生徒がだらけた。こまかいことや、挨拶ひとつでもこれまでは帽子をとってお辞儀していたのが、頭を少しだけ下

げて、挨拶やら、なんやらわからへん。それと身の回りのこと(髪型等)を気にするようになった。ただそのために勉強がおろそかになるということは今のところないように思う。

運動部なんかも長髪が許可されているんですか？

藤田 丸刈りもおるが、長髪も多い。知つとうように今は昔より全体的に弱くなっているからしよがなないけど、もし強くなって、「さあ、みな気合入れて丸刈りで行くぞ。」言うたら、生徒は間違いなく丸坊頭にしようと思う。そんなもんや。

では対外的にはどうでしょう？

藤田 対外的というか、他が白陵を見る目はかなり変わったと思う。先日も進学説明会にある塾に行つたんやが、その塾の先生がこんなことを言うつた。

「長髪になるまでは『白陵進学コース』はあまり人気がなく、定員割れもめずらしくなかったが、長髪になってからは逆に『甲陽進学コース』の生徒が白陵の方へ流れるくらいになりました。」

これまでは厳しい校則のために優秀な生徒をよそに取られていたということですね。何か、この辺に校則を変えた本音があるような気がしますが、少し話が違うかもしれません、園長が亡くなってから白陵の成績がそれまで以上に飛躍的に伸びたのは、生徒を押さえつけようとする園長の教育方針に誤った点はなかったのでしょうか？

藤田 園長が亡くなってから成績が伸びたのは、皮肉なもんやし、お前が言うように思う者もあるかもしれんが、わしは違うと思う。それまでの園長のがむしゃらな努力が実つたんや。そのために今の優秀な白陵があるんやと思う。ただその時その時の白陵に応じた方針が必要やということや。もちろん園長の方針がずっと正しいということもないし、全くおかしいということもない。園長のええところは残し、現状に合わないところは改める必要がある。

次に父兄の反応はどうでしょう？

藤田 学校が校則を緩めたということは、その分、親に責任をもってもらうことになる。ただ最近では親も戦後生れがほとんどで、軍隊式スパルタ教育にはピンと来ないやろ。逆に「厳しいから白陵に入れたのに」と言う親もおるが、まあどちらかといえば、緩くなって喜んでる親の方が多いやろ。では最後に先生は校則を変えてよかったと思われていますか？

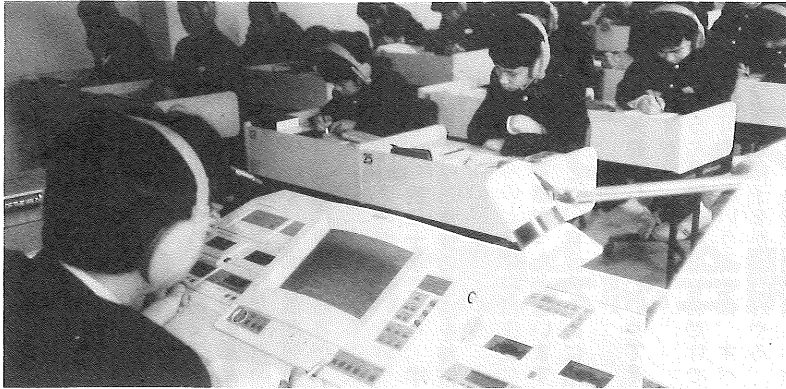
藤田 概ねよかったと思う。生徒一人一人が自主的に勉強やスポーツに打込んで白陵が立派に成長することを望んでいるが、そのためには、自由だけではなくて、その中にいろいろな仕組みが必要だと生徒に教えていかねばならないと思う。

今日は、ありがとうございました。

# 学校近況紹介

## 最新教育機器 の完備した

## LL教室



本部棟校舎の新築に伴い校内の設備拡充が推進された。その一環として、平成二年十月に設備費約2、600万円をかけ今後の英語教育に欠かせないLL教室（語学練習室）が完成した。旧職員室を大改造し、全国でも2校目という最新の語学練習機が導入された。

近年言われて久しい国際化、情報化に対応すべく、また大学入試における英語聞き取りテスト（東京大学の入試では実施されている）への対策としてその効果が大きいと期待されている。

教室前面の黒板（ホワイトボード）を左右に開くと、銀色に光る大型高級スクリーン（縦1、8m・横2m）が出てくる。そこに最新式のビデオプロジェクトクターから鮮明な画像が映し出される。教室の灯りを消してビデオ（勿論、英語ビデオである）を上映すると、まるで映画館に入ったような気分になせられる。近々、衛生放送の上映も可能になるとのことである。

48台の生徒用机には各々レコーダーが内蔵されており、教卓（コンソール）からのワンタッチ操作によって、生徒の出席状況の把握、教材の選定、教材テープの録音・再生等の機能をもっている。

生徒は教材を視聴しながら発音練習もできるし、模範生のリーディングを

各生徒にヘッドホンを通して聴かせることもできる。（授業中は先生が生徒を叱る時以外は日本語を殆ど話されないようである。）

また、ヒヤリングテスト結果の分析等については、先生が手元のコンソールを操作することによって各生徒の学習状況を5段階で評価し、その結果を短時間でグループ別に集計・分析ができ、コンソールに内蔵された感熱式プリンターによって、各種データを印刷することもできる。

現在の教材としては、実用英語技能検定（通称、英検）、大学入試問題、教科書付属テープ等多数のソフトが使用されている。

今後ソフト面でのより一層の充実がされれば、このように非常に高度な情報処理機能も持ちあわせているので、先生方にとっても、生徒にとっても授業の効率化を図るのに最適な機器であるといえる。

英語科の先生方もこれからの機能をフル活用すべく、学習意欲をかきたてられているとのこと。

学園内で最も注目と期待を集めて、今日も生き生きとした楽しそうな生徒達の顔が並んでいる。

（志方正彦）







# 白陵会ニュース

## ★ 東大・京大五十名合格！ 躍進するパワーエリート集団

昨年十二月に発表された中教審報告書に盛り込まれた「一高校から一大学への入学者の制限」と「私立中高一貫カリキュラムの是正」の二点は、私立進学校潰しの策動であると大きな波紋を投じました。しかしこの論議を横目に白陵では東大・京大合格者数において初めて五十名を突破するなど、その勢いは留まることを知りません。公立校の荒廃と共に、故三木省吾学園長の高邁な教育理念によって生み出された我らがパワーエリート集団は、ますますその真価を発揮するところでしょう。

## ★ 会報が第十号になりました

この会報も、昭和五十六年の第一号発行以来、十年目で第十号（第二号は園長先生追悼文集）になりました。今では名簿発行・総会開催と並んで、本会の「顔」となっています。ますます充実した情報誌を目指して編集に努めますので、どうか引き続き暖かいご支援をお願いします。

## ★ 名簿発行委員会始動

本号でご紹介の通り、来年の名簿発行に向けて特別委員会の名簿発行委員会がスタートしました。委員長には倉理事（二期）、副委員長には貞広理事（九期）・加藤理事（十期）のほか、伊藤（二期）、鎌田（四期）、塩崎（五期）、大崎（六期）、岡野（十七期）の各役員が委員に選任されました。前回に増しての会員諸氏のご協力をお願いします。

## ★ お詫び

昨年の総会でご報告した会計報告書の金額に一部ミスプリントがありました。また、会報第九号掲載の役員名簿には一部掲載洩れがありました。深くお詫びし、本号に正確なものを記載します。

## ★ 教員異動

次の五名の先生方が本年3月をもってご退職になりました。  
山本 年雄先生（国語） 昭和四十八年から十八年間在職  
塩飽 八久先生（国語） 昭和五十二年から十四年間在職  
勝谷さわ子先生（英語） 昭和五十一年から十五年間在職  
鎌田 政人先生（理科） 昭和五十六年から十年間在職  
橋本 秀蔵先生（数学） 昭和六十一年から五年間在職

## 白陵会物故者 (慎んでご冥福をお祈りします。)

長瀬 慶秋先生 (旧職員・昭和四十四年～昭和五十年在職英語) 平成三年二月 死去  
長谷川 朝一氏 (二十期生) 平成三年四月 死去  
西谷 明美氏 (二十四期生) 平成三年四月 死去

## 白陵会収支計算書

平成2年4月1日 ~平成3年3月31日

(単位 円)

収 入		金 額
科 目		
会費	2,660,000	
会費利息	483,000	
会受取	421,084	
雑収入	3,000	
雑寄付	108,000	
前年度繰越金	7,007,367	
合 計	10,682,451	

支 出		金 額
科 目		
会議費	248,408	
会費	1,314,615	
会費	60,841	
搬運費	445,612	
印刷費	290,460	
雑費	34,125	
次年度繰越金	8,288,390	
合 計	10,682,451	

## 編 集 後 記

天野委員長から吉田委員長にバトンタッチされた本号のご感想は如何でしたでしょうか？。今回は総会報告や名簿発行のお知らせなど記事も豊富でしたが、よりユニークな誌面づくりを目指すべく、「白陵今昔物語」校則変更の巻では、大胆にも藤田家将先生に単独インタビューを試みました。先生には在学中に変わらぬ暖かいご指導を賜り有り難うございました。一同、礼！。広報委では次号に向けて皆さんの投稿をお待ちしています。どうぞ奮ってお便り下さい。(隅々までお読み戴き有り難うございました。それでは今すぐ同封の名簿資料返信ハガキに着手して下さい。)